

ミニ牧場が“つなぐ”地域と介護

法人名	株式会社フレーバー
事業所名	介護付き有料老人ホーム ほたる阿久比
サービス種別	地域密着型特定施設入居者生活介護
発表者 職種・氏名	代表 布目裕貴

◆目的

株式会社フレーバーは、【楽しく暮らす】をテーマに施設運営を行っています。

2023年にオープンした「介護付き有料老人ホームほたる阿久比」では、「地域とともに生きる介護施設」を目指し、施設敷地内に『ミニ牧場』を設置いたしました。本事業は、動物を介した交流によって地域住民と施設利用者との接点を創出し、地域に開かれた介護拠点のモデルを提示することを目的の1つとしています。



◆背景（地域・施設の現状と課題）

愛知県全域にも言える事ですが、阿久比町は高齢化率が約30%に迫る地域でありながら、地域住民と高齢者福祉施設との接点は限定的です。また、介護施設に対する「用事が無ければ行かない」「閉じた空間」という印象も根強く存在します。当施設では、「ミニ牧場」を作ることで、こうした地域と福祉の“分断”を乗り越え、「誰もが気軽に立ち寄れる介護施設づくり」を模索してきました。



◆ミニ牧場の詳細（計画・構造・生物）

ミニ牧場は施設の横にある、芝生広場の一角に設けられ、常時ポニー1頭・ヤギ2頭を飼育しています。設計はバリアフリーで、車椅子の方でも安全に見学可能。牧場には柵越しにふれあいができるスペース、手洗い場、動物掲示板（動物の名前）などを備えています。飼育はスタッフと利用者の共同で行い、「命を育む」喜びを共有しています。



◆運営体制

日常的には動物好きのスタッフが集まった「牧場委員会」が飼育を担い、利用者が餌やりや観察に参加。法人内各施設の巡回訪問も行っている。「牧場委員会」には法人内の様々な施設からの参加者がいる為、施設間の横のつながりや交流が増え、スムーズな施設運営にも役立っている。

法令的には「第二種動物取扱業（展示）」の届出も行い、適切に運営を行っています。



◆開設費用を地域から調達

牧場開始の費用は、クラウドファンディングで調達しました。知多地域の市町村なども協賛する「ちたクラウドファンディング」の仕組みを活用し、約100名の支援者ら、120万円以上の資金を頂くことが出来ました。支援は地元の方を中心に全国から寄せられ、ミニ牧場を中心とした介護施設の取り組みが評価されました。



◆地域交流の実績

牧場内は基本的に出入り自由。誰でも自由に遊びに来ることが出来ます。「遊びに来たところがたまたま介護施設だった」「お話した方が偶然 認知症で認知症の事を知る機会になった」「地域に介護施設がある事を知った」そんな「介護に自然に出会える場所」になる事を目指しています。自由な雰囲気ミニ牧場は、朝の情報番組のお天気中継の場所にも選ばれ、介護施設からのお天気中継が実現しました。これまでの常識では介護施設からのお天気中継は考え難く、画期的な出来事となりました。

○ほたマルシェ

毎年初夏に地域交流の一環として、ミニ牧場でマルシェを行っています。昨年は約2900名の方が来場し楽しみました。介護施設だという事を意識せずに、施設へ来ていただく取り組みの1つとなっています。



(昨年開催されたマルシェの様子)

○こどもの遊び場として

動物を見ることが出来る遊び場として、地域の保育園「ほたる保育園」「岩滑北保育園」「いしぎかやまこども園」がやって来ます。子ども達との交流も高齢者の楽しみの1つになっています。また、夕方や土日に保護者の方と牧場を訪れる園児の姿も見ることが出来ます。



◆認知症カフェと違い

認知症カフェとの一番の違いは、**来場者が「認知症」や「介護」を意識しているか。**という点だと考えます。「遊びに来た場所か**偶然** 介護に触れられる場所だった。」「生活の中に自然にある公園のような位置づけで介護施設がある。」そんな場所を目指しています。介護や施設の事を意識していない層へのアプローチを自然に行う事で、介護への理解を促進し地域と介護施設の交流を促進していくと考えます。

◆成果と社会的意義

「ミニ牧場」を通じて、「介護施設＝地域資源」という認識が地域内に根付きつつあります。子ども、高齢者、働き世代、スタッフが動物を介して交わる空間が生まれたことで、地域のつながりが可視化され、「高齢者と共に生きる地域づくり」の第一歩となりました。

「高齢者の為の介護施設」から「地域の介護施設」へとなる為に、ミニ牧場を通じた交流は最適で重要な意義があると考えています。



(ポニー施設内へ巡回)



(子どもの動物お世話体験)



◆今後の計画・持続性

今後は以下の展開を予定しています：

1. 「牧場ボランティア制度」の導入（地域の方が牧場管理を一部担う）
2. 「移動ミニ牧場」の構想（小型の移動動物ふれあいセットを近隣高齢者宅へ巡回）
3. ミニ牧場と連動した「子ども×高齢者」防災訓練・防災教育の試行
4. 動物セラピーの場としての高齢者施設の観光地化

本取組は、単発イベントではなく、継続的な地域福祉のモデルとなることを目指します。